



かけはし

平成24（2012）年 3月8日発行
横須賀市立長沢中学校長 山下 実

（学校評価アンケート特別号）

平成23年度 学校評価アンケートのまとめ

この度は、学校評価に関しまして、アンケートのご協力ありがとうございました。10項目を検討の柱として、結果をまとめましたので、ここに報告させていただきます。

学校評価の目的として、①開かれた学校づくり、②教育活動、内容の質の向上、③学校の活性化、④教職員の資質向上、のために実施しました。アンケート調査は、生徒、保護者、学校評議員、職員に実施し、分析を行いました。

評価でAとBについては、肯定的と考え、60%以上を良いと捉え、50%を切るものを課題ありと捉えました。CとDについては否定的で改善が必要であると捉え、総合的に分析し、学校改善の方向性を示しました。

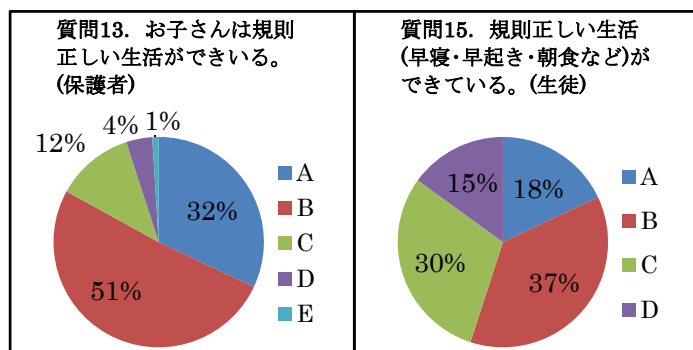
<評価アンケート実施対象者と回収率>

1. 生徒による評価の回答数	1年生 114名（在籍125名）91.2%
	2年生 112名（在籍122名）91.8%
	3年生 92名（在籍107名）86.0%
	回答数 318名（在籍344名）92.4%
2. 保護者による評価の回答数	1年生 回答数117名 93.6%
	2年生 回答数109名 90.0%
	3年生 回答数 89名 83.1%
	5組 回答数 9名
	総回答数 324名 88.5%
3. 職員による評価	23名
4. 学校評議員	4名

A：よくあてはまる
 B：ややあてはまる
 C：あまりあてはまらない
 D：あてはまらない
 E：判断できない

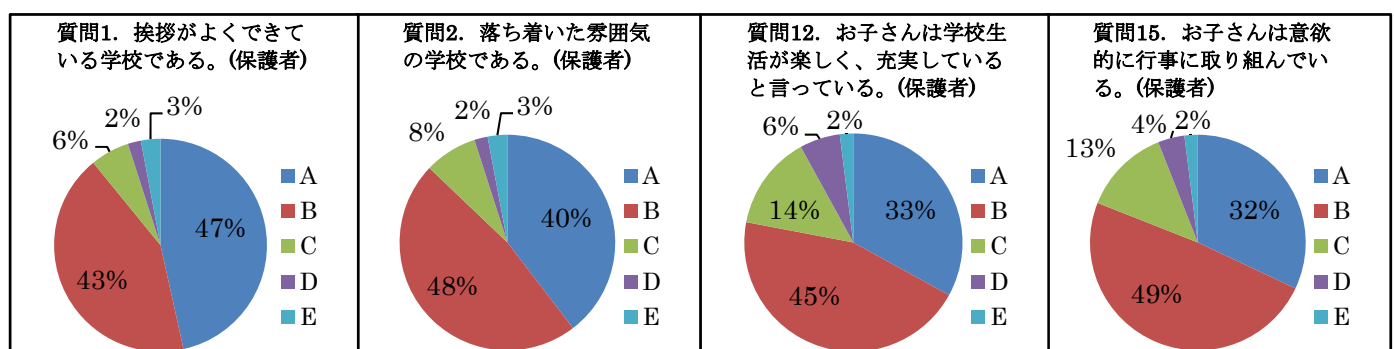
<検討事項とその分析>

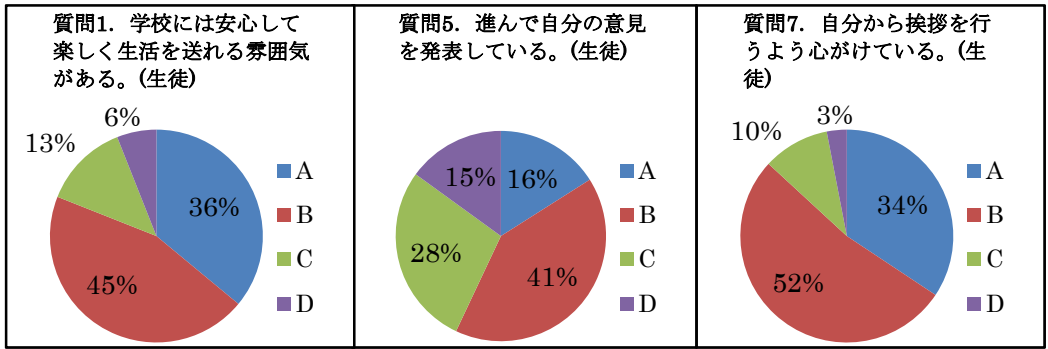
1. 規則正しい生活について



保護者と生徒について捉え方の違いはあるが、昨年度と比べるとやや改善されている。塾や習い事の関係で就寝時刻が遅くなってしまう生徒も多いと考えられるので、保護者と連絡を取りながら生徒の健康に気を配っていく。

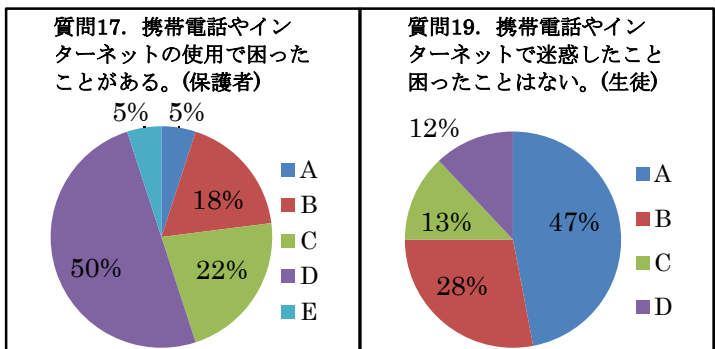
2. 学校生活について





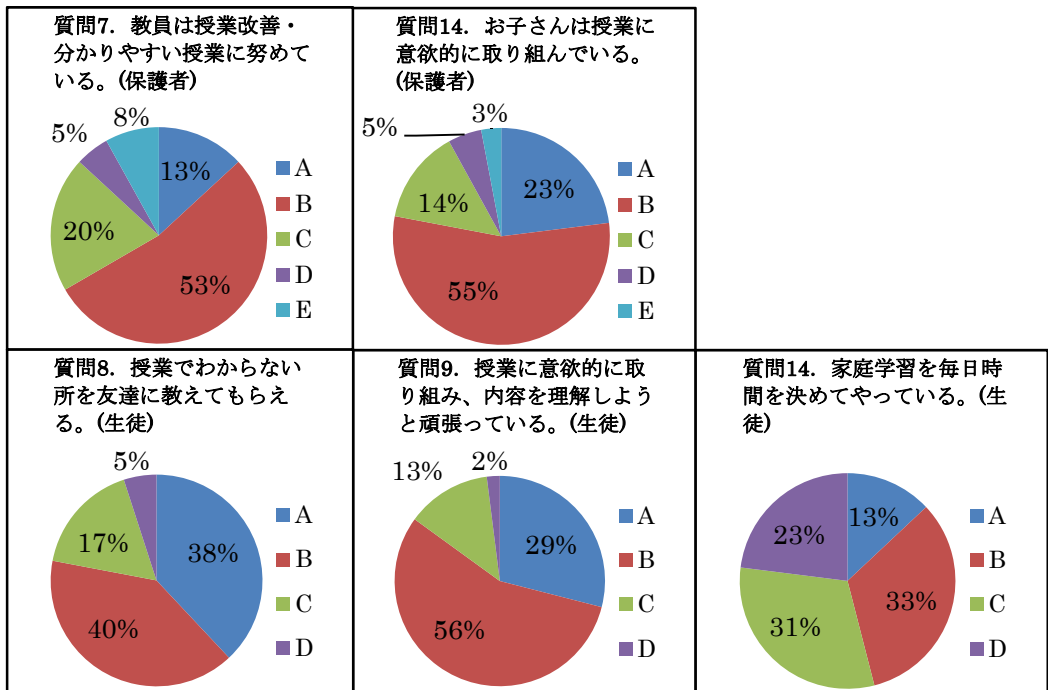
保護者は全体的に、落ち着いた学校生活が送れていると評価していただいているが、昨年度に比べ「挨拶・落ち着いた雰囲気」で5ポイント程度下降しているのは、意識を再確認しなければならない。また、生徒は自分の意見についてのポイントが低調である。より活発な雰囲気作りなどを構築していく。

3. 携帯電話・インターネットの使用について



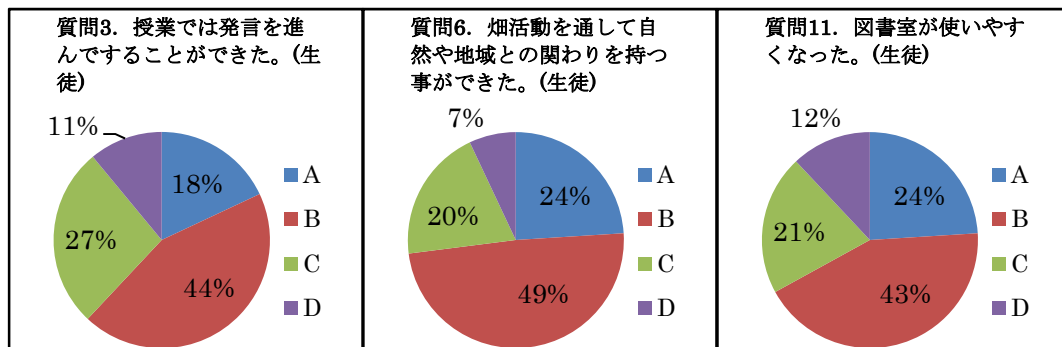
保護者・生徒ともに、「困り感」は昨年度と同じポイントを示している。本来の実態はどうか、各家庭での「使い方の約束」が浸透していると考察したい。端末が今後進化することはあっても、絶対になくなることはあり得ない。より一層、利用の約束を地域とともに啓発することが大切である。

4. 授業について



意欲的に授業に向かう生徒の姿勢はきわめて高い。また授業がよくわかると答えている生徒も多く、一定の成果がみられる。しかし、知識習得に偏る傾向が見られ、考えて活用する力はこれから育成していく課題と考える。そのためには、教科の目標に基づく年間学習計画の作成と授業内容の工夫改善に努めるとともに、学習目標の理解ができるよう、工夫に努めることを取り組んでいく。

5. 道徳・総合・図書について

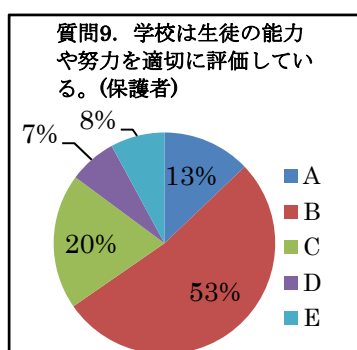


〈道徳〉昨年度と比べ大きく良くなった。教材や授業展開、生徒の話し合いなどをさらに工夫していく。

〈総合〉畑活動について生徒の捉え方は定着してきている。今後も長沢中の特色の一つとして大事にしていく。

〈図書〉今年も図書室の様式替えが行われた。生徒がより使いやすくなるよう図書の充実も含め行っていく。

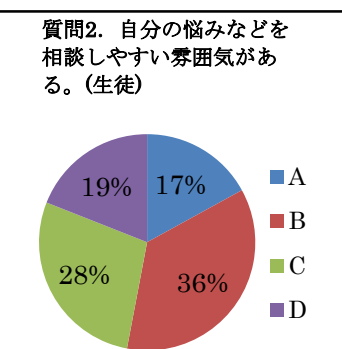
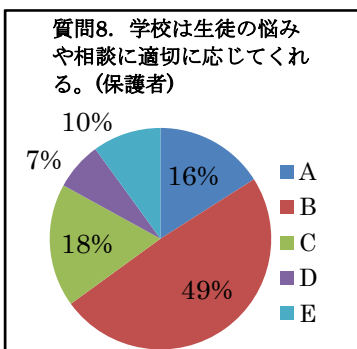
6. 評価について



学習評価は、目標に対してどのように授業で学び、身に付けていくのかをしっかりとおさえる事が大切である。そのなかでは、思考力や判断力を高め、考える力を通して知識を活用できるようにしていく事が求められる。まだ知識に対する学習や確認をする事が多く、実力を上げるには、その先を考えなければならない。そのためには、

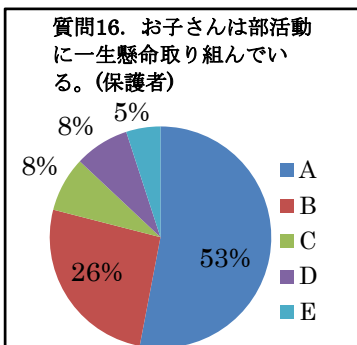
- ・試験問題作成に関して、知識理解のみならず思考・判断を問う作問の工夫をしていくことで、授業で身に付けた力を確認する。
- ・目標をおさえ、観点別評価をより適切にバランスよく観るとともに、指導と評価のつながりを大切にする。
- ・教科のみならず、目標に対する理解を深めることが大切であることから、目標意識の醸成を考えて取組をする努力をしていく。

7. 相談活動について



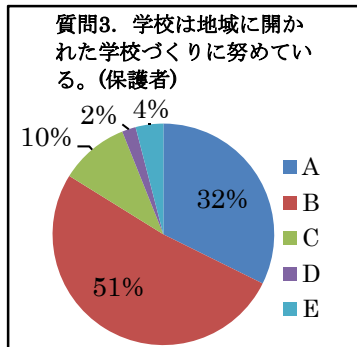
「相談しやすさ」を向上させる取組については、時期や場面を狙った相談活動や相談週間を設定して、積極的に「相談しやすい」雰囲気を作っていく必要がある。

8. 部活動について



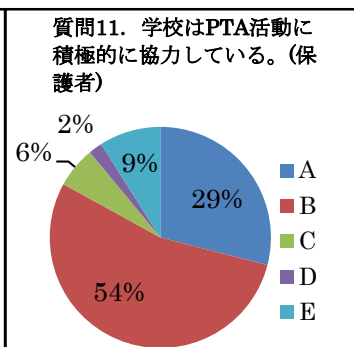
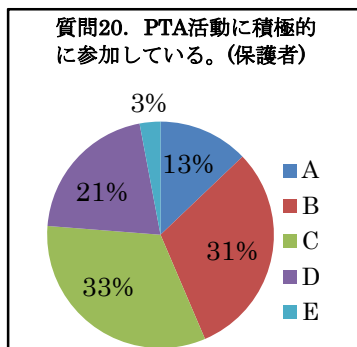
A+Bのポイントについては、昨年度より11ポイント程度下降している。生活指導の一環として大きなウエイトを持つ活動の一つとしてとらえ、再度、指導の再確認と育む生徒像を視点として取り組む必要がある。

9. 開かれた学校づくりについて



これからの取組として考えられる学習面や部活動・コンクールなどさまざまな生徒の活躍を情報発信していくことで、開かれた学校により近づくと考える。

10. PTA活動について



地域の方を学校の活動に参加していただくことで周りの方も学校への関心が増し、現役PTAの世代へも伝わっていくものと考えます。気軽に参加できるような取組を模索していければと考える。

○保護者からの記述より

【全体的な講評】

- 学校全体が落ち着いた雰囲気、子どもを安心して通わせることができる環境である。気持ちのよい挨拶ができる生徒が多い。
- 畑作り等を通して、地域との交流も活発に実施され、ちよボラを通して奉仕活動にも力をいれている。楽しい行事が多く保護者が行事に参加できる機会が多い。

【改善の視点】

- 教師自身がよりよい学校をめざし、今まで以上に研鑽を積み、わかりやすい授業の構築・一人ひとりを大切にしている生徒指導に努める。
- 防災対策も含めて、生徒が安全に生活できる環境の構築に引き続き努める。

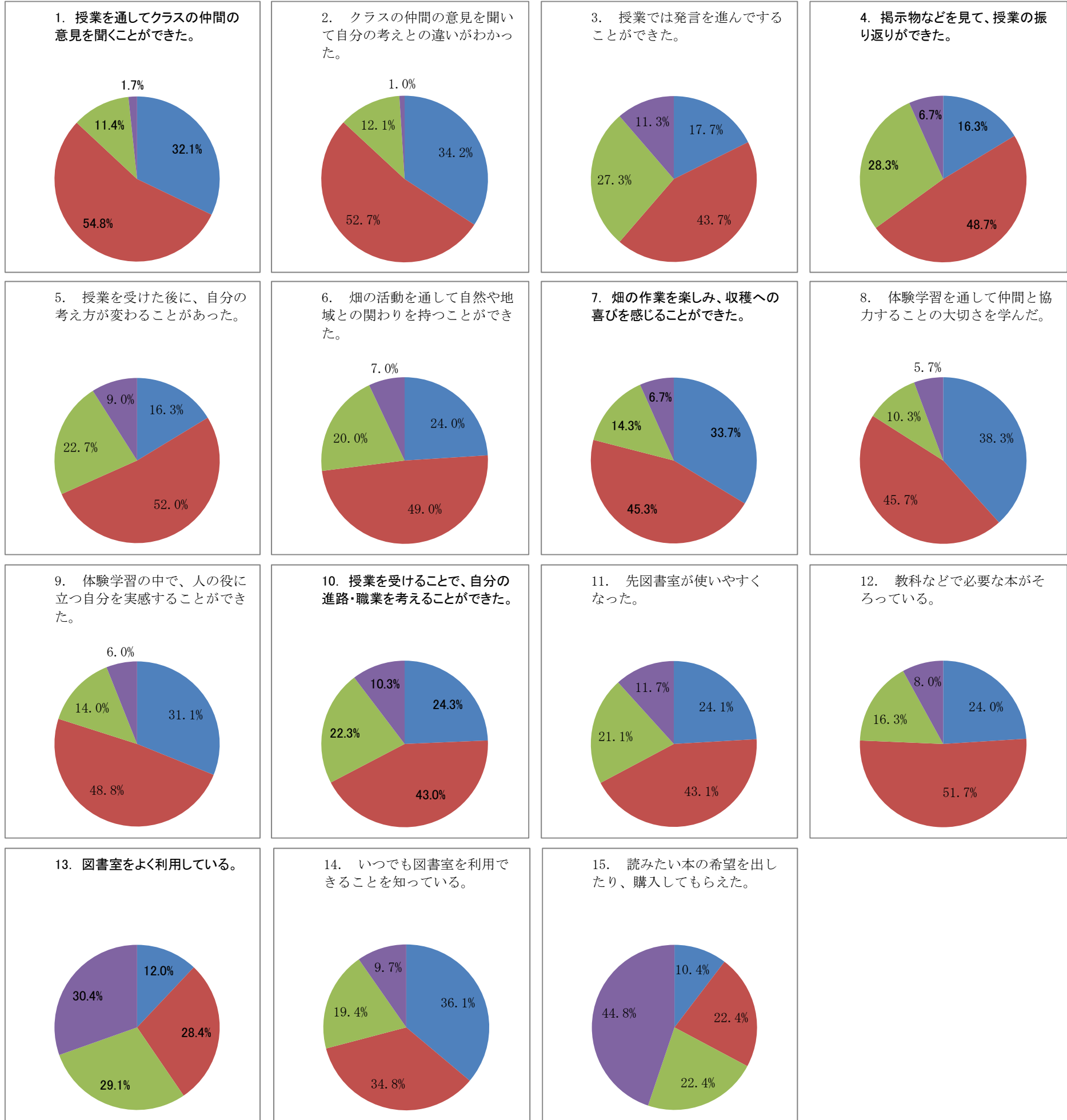
○学校評議員の評価

生徒は落ち着いた学校生活を送り、自然に挨拶ができている。また、土日に体育祭・合唱コンクール・授業参観を実施したことについては、保護者の参加も多くてよかったという意見であった。教職員に対しては、比較的よい評価だったが、授業などについては、さらに研鑽を積んでいかなければならない。また、生徒の地域活動への参加が積極的ではないという指摘もあった。来年度も学校を直接見ていただく機会を増やし、学校の状況を理解・判断していただくように学校評議員会を大切にしていこう。

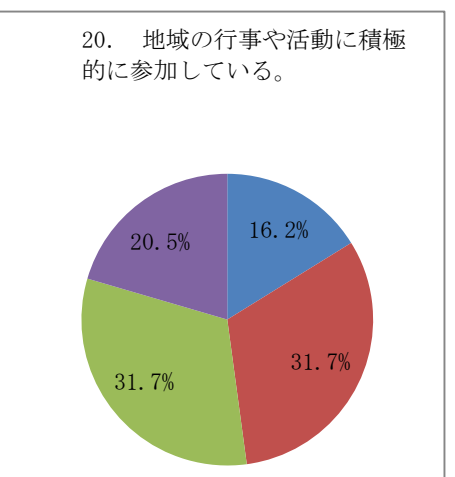
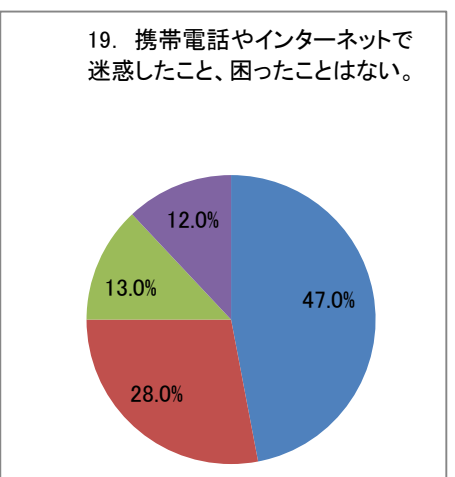
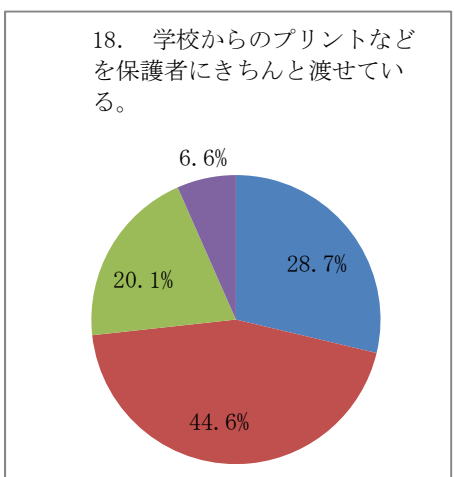
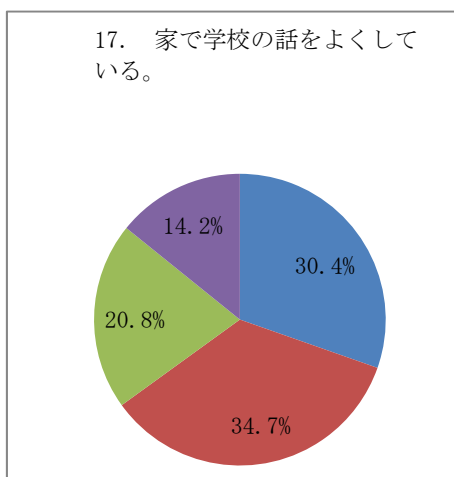
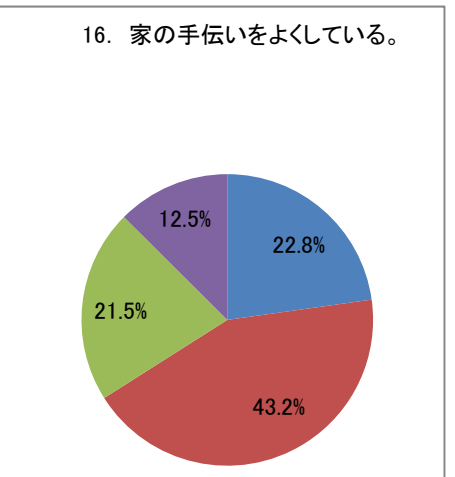
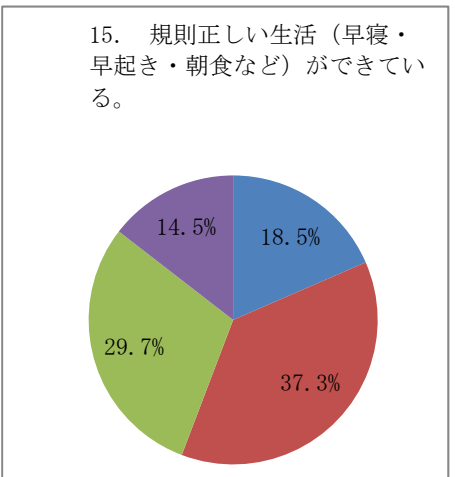
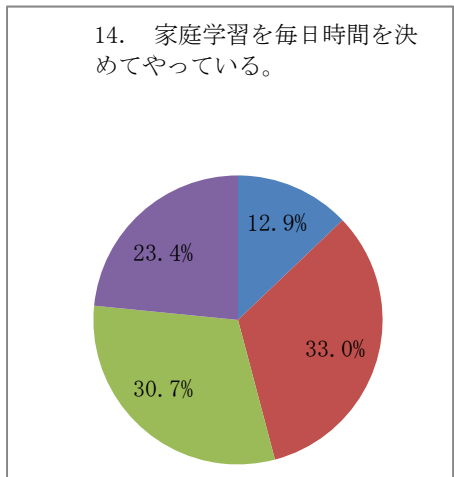
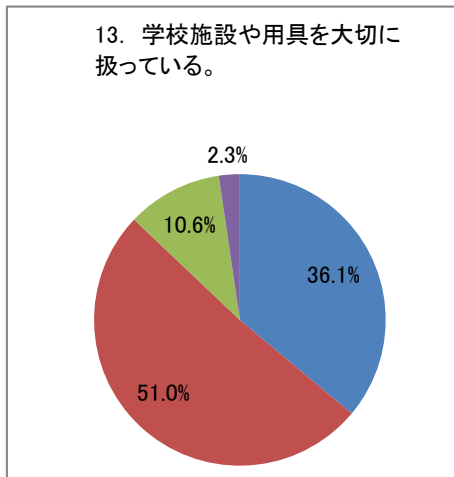
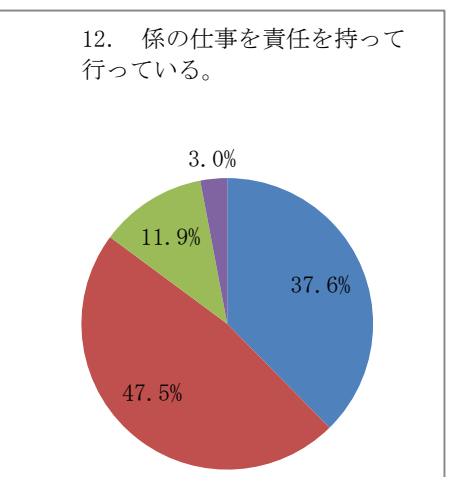
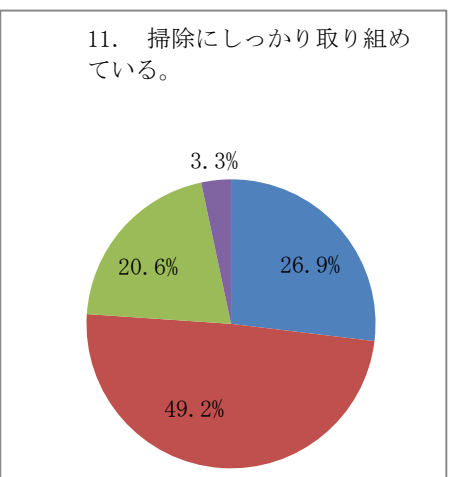
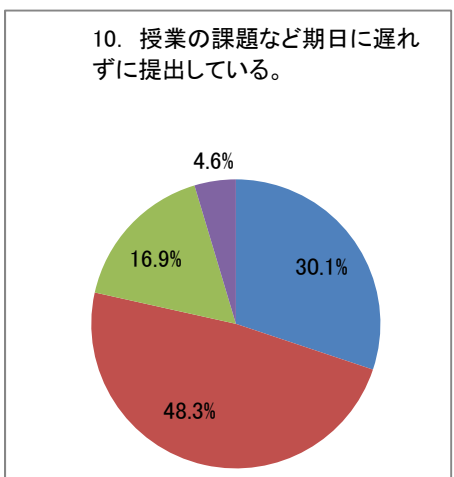
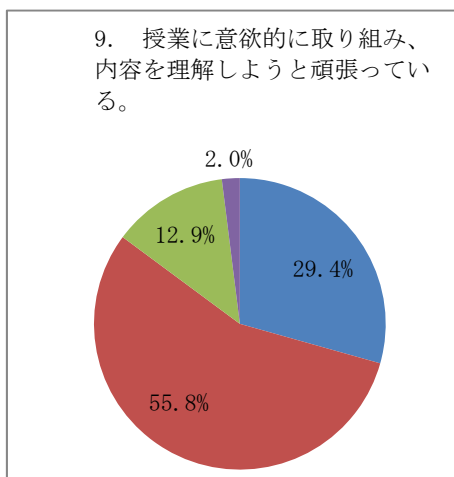
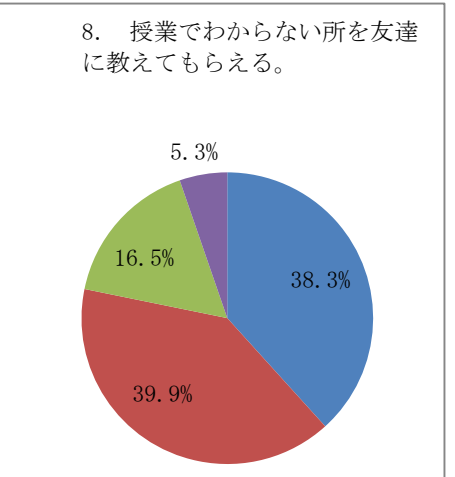
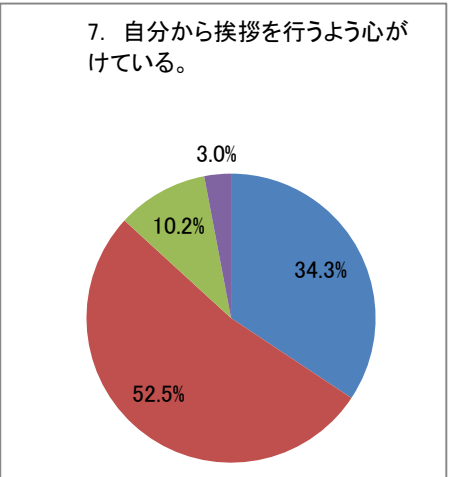
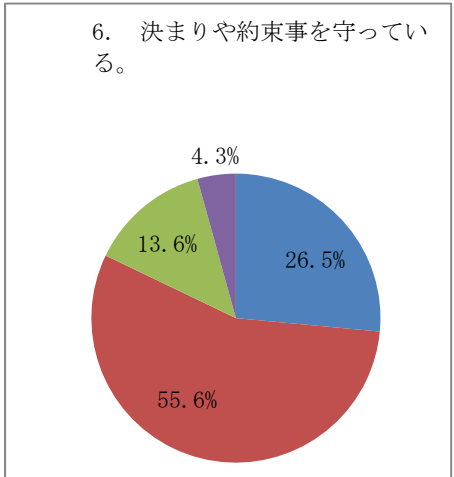
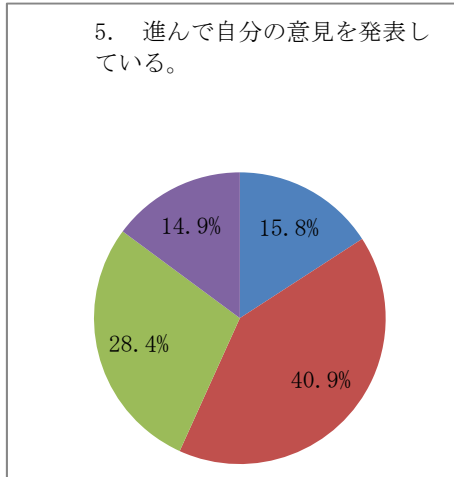
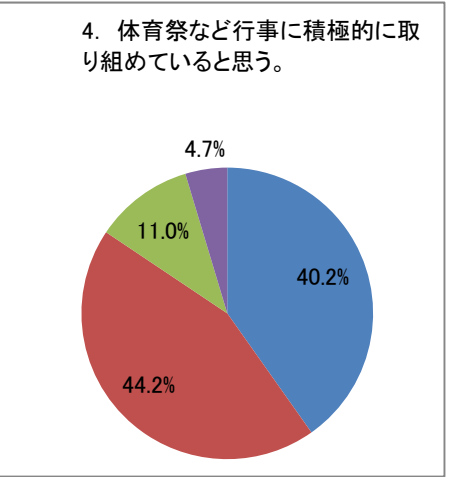
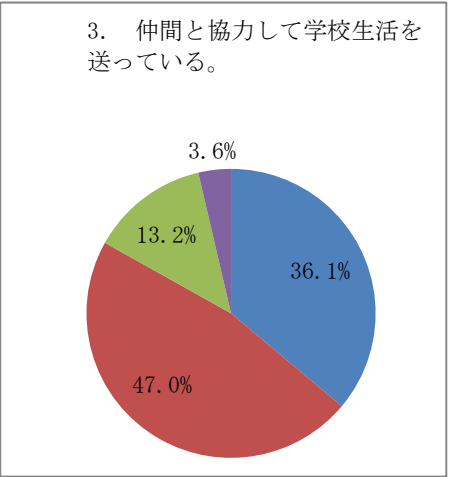
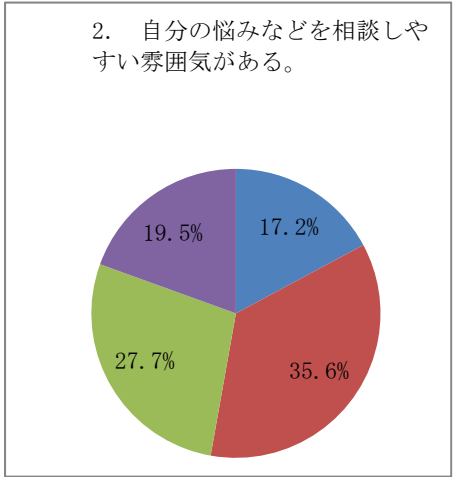
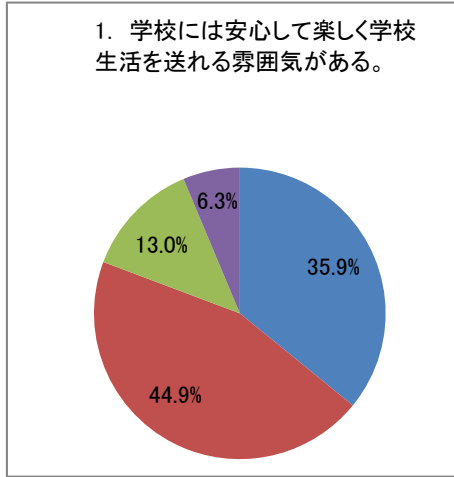
○教職員の自己評価

学校長も代わり、教職員もここ数年で多くの入れ替えが予想される。長沢中の教育を継承・発展させていくためには、各自がチーム長沢の一員としての自覚を持ち、力量アップと共にお互いにコミュニケーションを図りながら、明るく、元気に、自信を持って「子ども達の健やかな成長のため」に仕事を推し進める必要があると考える。

学校生活・家庭について



道徳・総合の授業、図書室について



■よくあてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない ■判断できない

